

年8月の世界大会へのご参加をお誘いするとともに、第10回ジャパン・ワークショップへのご協力をお願いする次第です。

図書紹介

◎ニーム—聖なる木, インドセンダン (PURI, H.S. 1999. *Neem—The Divine Tree, Azadirachta indica*. Medicinal and Aromatic Plants—Industrial Profiles Vol. 5, Harwood Academic Publishers, New York, 182 pp. 約13,000円税込)

インドセンダンの原産地については諸説があるが、本書では、もとはインド南部とミャンマー内陸の乾燥林が分布の中心だったとしている。ちなみに本属にはほかに *A. excelsa* (主にフィリピン) と *A. siamensis* (主にタイ) が含まれる。いずれにしても現在は全熱帯で広く植栽されており、一部では野生化している。そのインドセンダンにいろいろな効用があることは聞いていたが、本書を繙いてその多様なことを改めて再認識した。目次から効用に関わるものをあげると、9. 伝統的利用, 10. 治療上の効能と薬理学的研究, 11. 獣医の実用, 12. 毛髪ケアおよびボディケアのための製品, 13. 毒物学, 14. 農業におけるニーム, 15. 堆肥としての種子絞り粕と栄養阻害物質, 16. 家禽類および家畜の飼料, 17. ニームと汚染, 18. ニームと家屋内害虫, 19. 食料品の保護, 20. ニーム利用のための複合工場, 21. ニームに関わる特許, といった具合で、最初の図1では、農業、林業、家事、医薬品の4分野に分けて効用を列記しているが、合計は40項目を越え、本種がいわゆる多目的樹種の中でも群を抜いていることを示している。もっとも、そこに列記されている効用がすべて科学的に実証されているものかどうかは定かでないが、伝承的に使われてきたことは確かなようで、将来の可能性を示唆しているという点で興味深い。(浅川澄彦)